2025 年花き生育情報（チューリップ花芽分化・第６報）

チューリップの花芽分化状況について（８月８日現在）

令和７年８月 19 日
経 営 普 及 課
（農業革新支援担当）

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要３品種のデータを紹介します。

１　供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場（砂壌土）産球根

品種（系統）	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム（T）	６月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス（SL）	６月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー（T）	６月６日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

２　花芽分化の状況

（１）ここ数日の気温低下により花芽分化には進展の動きもみられるが、依然として品種により平年に比べて２～３週間以上遅れており、平成５年の調査開始以来最も遅い（表１、図１）。

（２）花芽分化段階は、プレルジュームでは外花被分化期（P1）～外雄ずい分化期（A1）に進展、イルデフランスでは内花被分化始期(P2)～内雄ずい分化期(A2)に進展、メリーウィドーでは分化始期（Ⅱ）～外花被分化期（P1）のまま停滞しており、各品種とも平年に比べて３段階程度遅れている（表１、図１）。

（３）ノーズ長は、プレルジュームでは平均 3.0mm、イルデフランスでは平均 3.7mm で、平年に比べて５日程度の伸長の遅れ、メリーウィドーは平均 2.1mm で、同２週間程度遅れている（表１、図１）。

（４）本年は６・７月共に記録的な高い気温となったため、花芽分化のタイプは、予測図の枠から外れるものの「障害発生型」に当てはまるものと推測される（図３）。令和５年の促成切り花に一部みられたような花器形成障害（ブラインド、奇形花等）の発生に注意が必要である。

３　年次別りん片含水率（７月 10 日定期調査）

花芽分化促進条件の一つであるりん片含水率は、メリーウィドーで 57%、プレルジュームで 55%、イルデフランスで 59%と、いずれの品種もほぼ平年並である（図２）。

４　今後の技術対応等

（１）促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。

（２）年末～１月出荷の切り花作型を予定している球根は、腐敗球の除去や十分な換気に留意しながら、中温処理（20℃冷蔵庫内で管理）を行うことが望ましい。

５　具体的データ

添付ファイル「T250808data（花芽）」参照

※　次回は、８月 15 日調査のチューリップ花芽分化（第７報）をお知らせする予定です。